

[CONTENTS]

ピックアップ!	1面	2025年度後期活動報告	1～7面
いみず学生アイデアコンテスト	8面	成果発表会出展一覧	9面
学生団体活動報告	10面	コラム	10～11面
		その他情報	12面

PICK UP!

後期成果発表会開催

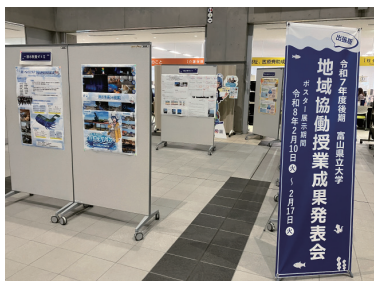
令和8年1月22日(木)に、後期の地域協働授業成果発表会を開催しました。後期はポスターセッションによる発表形式で、各ゼミや学生団体など14団体がその取組みの成果を報告しました。今回は、射水市と連携し「いみず学生アイデアコンテスト」枠を新たに設け、3つの実証実験についても、その活動を紹介しました。発表ポスターは2月6日(金)まで展示するとともに、Webの特設ページでもポスター掲載を行いました。

参加者からは「各ゼミが地域の問題と真剣に向き合って、課題解決までの過程が魅力的だった」「今後も地域協働授業を続けていって魅力を発信すべきだと感じた」「地域の様々なテーマ、課題に直接触れることのできるこの取組みは、学生、地域双方にとっても有意義であることをとても実感します」などの声が寄せられました。(一覧は9面へ)



PICK UP!

学外にてポスター展示を初開催



成果発表会で学内展示していた各団体のポスターの一部を、射水市役所本庁舎の1階エントランスホールに、2月10日(火)～17日(火)で展示しました。今回、初めての学外展示となりましたが、より多くの地域の皆さんに本学の地域協働授業の様子を紹介することができました。このような取組みは今後も広げていく予定です。

2025年度後期活動報告

滑川市長への提言ー「新・ホタルイカミュージアム」を核にベイエリアを変える3つの企画

清水教養ゼミ

清水ゼミは、滑川市役所と協働し、ほたるいかミュージアムを中心としたベイエリアの課題解決案を滑川市長にプレゼンを行いました。1. ミュージアム、2. 駅からの導線、3. タラソピア跡地、4. はまなす公園の4チームに分かれ、それぞれの案を融合し1つにまとめ上げました。10月の2回のフィールドワークを行い課題を把握し、11月の中間報告での厳しいコメントをもとに作り直し、12月25日の市長への最終報告会に臨みました。市長からは、「実現したい」と高い評価を得ました。この活動を通して清水ゼミでは、社会で求められるプレゼン力の水準の高さを認識するとともに、その対応力を会得し、行政と連携した地域課題への取組みの重要性が共有されました。



まちを歩き まちを知る「まちづくりゼミ」 小林教養ゼミ

小林教養ゼミのテーマは「まちを歩き まちを知る」です。前期では、地元の食堂のカツ丼を食べ、用水路沿いを歩き、小杉旧町、太閤山公園の相撲場、兜山公園などの隠れた「名所」を巡り、射水キャンパス周囲のありようを体感しました。後期では、新パスコ、新湊博物館、旧町の竹内源造記念館・十社大神・小杉展示館などを訪れ、小杉地区のまちの成り立ちを学びました。旧町の町内会に参加し、かつての景観が収められた白黒の古写真をカラー化するイベントを行ない、地域の方々と交流し、賑やかだった過去の記憶を呼び起こしました。小林ゼミは、旧町にサテライトキャンパスを作って、学生の皆さんが一带をぶらぶら歩くようにすれば、まちが元気を取り戻す一助になるとの考えで活動しています。



学童保育施設で行った科学講座 リ・碓井教養ゼミ①

リ・碓井ゼミでは、学生が主体となって企画・運営を行う出張科学講座を実施しました。本活動は、ゼミにおける学びを地域と共有することを目的とした地域協働の取り組みとして行われたものです。小学校低学年の児童を対象に、空気や化学反応、ばね、表面張力などの身近な科学現象を扱った実験・工作が行われました。当日は二つの施設で同時に開催され、全体活動と体験型のグループ活動の二部構成で実施しました。参加した児童からは、体験を通じて科学への関心が高まった様子が見られました。企画から実施までを担う過程において、「誰に、何を、どのように伝えるか」を意識しながら試行錯誤を重ねることで、学生は課題解決力やコミュニケーション能力を実践的に活用し、自身の学びを見つめ直す機会となりました。



クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して 金城教養ゼミ

金城教養ゼミでは、鈴木教養ゼミと竹澤教養ゼミと合同でクリスマスマーケット in TOYAMA を開催しました。ゼミ活動では、ドイツ料理を作る体験や五箇山へのフィールドワーク、土人形作り体験などを通して、ドイツと富山の民俗文化について学習しました。また、本マーケットで実施するアヒル釣りのルールの検討も行いました。当日は、ドイツ菓子や土人形、五箇山和紙の販売、アヒル釣りを実施しました。アヒル釣りでは、若い子どもにも楽しんでもらえるよう工夫した結果、100人以上の来場者が訪れました。これらの活動を通して、人とながら楽しさや相手に合わせた対応をすることの大切さを学ぶことができました。



地域協働研究会 COCOS とは

地域協働研究会 COCOS とは 2014 年 4 月に県立大が設置した学生団体です。COCOS の名前の由来は COC(Center Of Community : 地(知)の拠点)※)と OS(Operating System : 基盤)で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PRを行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取り組みを支援する COCTA(Teaching Assistant) も担っています。

※ 2013 年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業 =COC 事業」より



企業体験型プロジェクト、オープンファクトリートミファ成果報告

リ・碓井教養ゼミ②

リ・碓井教養ゼミ I では、県内のものづくり企業の知名度向上のため地元企業と合同でオープンファクトリー「トミファ」を実施しました。トミファは、主に小学生を対象とした体験型の企業説明会を行うことで、地元企業を知ってもらい誇りに思ってもらうことを目的としたものです。合同イベント当日は合計 10 社が参加、初年度開催ながら 250 名以上の方が来場、各企業が独自に行った工場見学も含めると累計参加者数は 1000 人を超えた大規模イベントとなりました。本プロジェクトは約半年にわたって実際の企業課題解決に向け綿密な計画の元、成果発表会なども交えながら行われ、その結果想定約 1.5 倍の参加者となりました。



若者世代の SDGs 理解向上に向けて

谷田・瀬戸教養ゼミ

谷田・瀬戸ゼミでは、富山県成長戦略課の事業の一環として、県内の若者における SDGs に対する理解向上を図るため、県内企業における SDGs の取組みについて把握し、持続可能な経済・社会のあり方について学び・考える授業を実施しました。



まず SDGs への理解を深めるため、専門家から世界や日本の潮流、県内企業の取組みについて講義を受けました。次の回では、グループに分かれた座談会形式にて、特長的な取組みをしている県内 3 つの企業から、それぞれの活動紹介を受けました。各企業との対話の中では、今後のキャリア形成にも話題が及び、自身の将来や働き方、企業のイメージなど、多様な視点で様々なことを考える機会となりました。

キャリア育成「あきらめずにやりきる力」～藤ノ木小学校とコラボ～

リ・碓井・モクタリ教養ゼミ

リ・碓井・モクタリ(明)教養ゼミでは、現役大学生としてこれまでの経験を伝えることで、小学生の視野や価値観を広げることを目的に藤ノ木小学校の 6 年生に向けて「あきらめそうになったけれど、最後まで頑張って達成したこと」というテーマでプレゼンテーションを行いました。

当日は、10 分間のアイスブレイキングを行った後、1 人 5 分間のプレゼンテーションと 5 分間の質疑応答を実施しました。

授業後の学生アンケートでは、教える立場を経験したことで学び方への視点が広がったという回答が多く見られました。理由として、「普段とは違う新しい経験ができた」「小学生にも伝わるように表現を工夫する必要があり、自分の改善点に気づけた」などの感想が寄せられました。



地域に学ぶ授業の様子



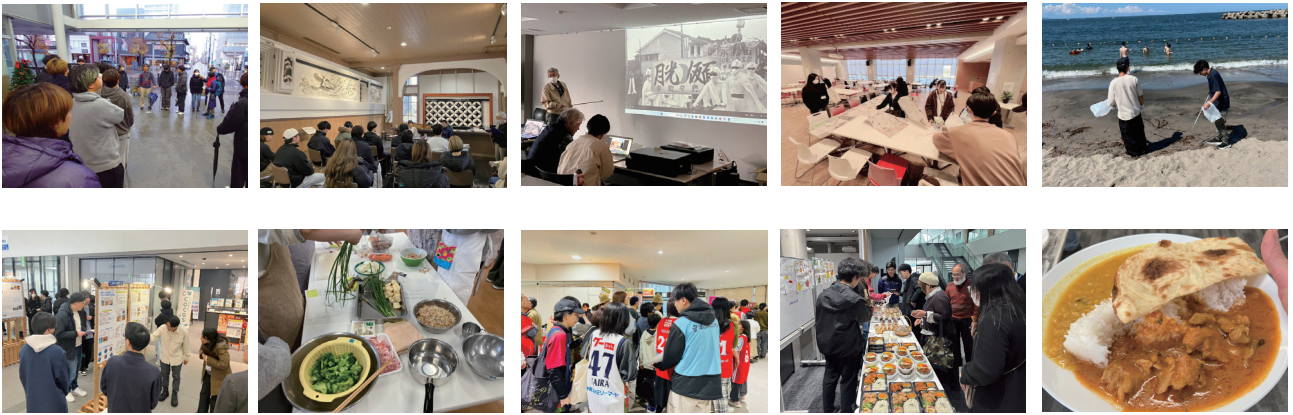
【小杉旧町】



【万葉線】



【イミズスタン】



反転授業を利用した協同的授業プログラムの実施

先端技術教育反転授業推進チーム

先端技術教育反転授業推進チームでは、教員が一方向的に知識を伝える従来型授業に代わり、学生が事前学習した内容を学生自身がアウトプットする反転授業を導入し、主体的・能動的な学習の実現を図りました。本活動ではまず、研究室所属の大学生が教員に対して模擬授業を行うことで授業内容の精査および理解度の可視化を行い、教員の指摘を受けて授業内容を改善し、その成果を基に大門高校の生徒を対象とした反転授業を実施しました。高校生は事前学習を踏まえて発表を行い、大学生がクイズアプリを用いてミニ講義や補足説明を行いました。さらに、グループで意見やアイデアを共有することで学習内容への理解を深めました。本活動により高校生と大学生双方の発表力・説明力が向上し、教育的に有益な成果を得ることができました。



危機対応の人権基準から平時の人権を考える観光と校則に着目して

中村(秀) 専門ゼミ

中村(秀) 専門ゼミでは、校則や観光業の問題を、スフィア基準と称される紛争や難民支援において国際的に活用されている人権基準を基に考えました。校則の問題では、ブラック校則と呼ばれている校則が子どもの権利を前提につくられていないことや、子どもがブラック校則を変えられないものと受け入れていることなどが課題として挙げられました。また、観光業の問題では、地域住民、観光客、民間企業、行政それぞれの立場を整理し、対話の場や苦情受付の仕組みなどの具体例を通じて解決策を検討しました。

この活動を通して、スフィア基準は災害時の人道支援だけでなく平時の問題の発見にも使用可能であることを学ぶことができました。



情報技術を活用したものづくり教育支援の実践

岩井専門ゼミ

岩井専門ゼミでは、小学5年生を対象に、ドローン操作やプログラミングを体験する授業を毎年実施しています。これまでの実施から、児童が説明を理解することが難しかったため、今年度は事前視聴用の動画やパネルを用意し、理解を促しました。

12月にはドローンの自動飛行の精度を競う「とやまドローン学生交流競技大会」への参加および運営補助を行い、22チームのうち、プログラム部門で2位、マニュアル部門で2位となりました。技術面だけでなく、運営補助の活動からも学びがありました。



また、高校生を対象に、CAD/CAMを活用したキーホルダーを製作する実習を行いました。デザイン作成から木材加工までを体験することで、情報工学とものづくりの関係を理解できる実習となりました。

視覚障がい者に科学の楽しさを伝える体験教室の開催

本吉専門ゼミ

富山・石川両県の視覚障がい者に向けた科学体験教室「科学へジャンプ in 北陸 2025」を開催しました。視覚障がい者教育のスペシャリストによる「ハートをつかもう」では、生徒自らニワトリとブタの心臓を手に取りハサミを入れながら、仕組みや働き、生物による違いを学習してもらいました。「Wikki Stix を使って図を描こう!」では粘着性のある紐のおもちゃを利用して、触図を描いたりしながら幾何学的な形の違い、触図の必要性を体験してもらいました。「触って、動かして、想像して、話し合っって科学を楽しもう!」では、インテック、ケージーエスの協力のもと、イラスト(触知図)や触れるアニメーションを介して人とどこまでイメージを共有できるかをゲーム感覚で体験してもらい言葉で残すことの大切さを学んでもらいました。



センシング技術を用いた丘陵地区の魅力要因分析と新たな情報システムの開発

西原研究室

呉羽丘陵および同エリア内のファミリーパークの魅力創出を目的とし、多角的な調査とシステム開発を行いました。まず「月いちウォーク」に参加し、歩行者の行動データを収集・分析しました。また、新たな情報発信基盤を目指してLEDウォールの制作を行うとともに、教育用VRシステムの開発を実施しました。特にVR開発では、CAVEを用いた小動物視点体験が人の情動(PANAS/SUDs)に与える影響を定量的に検証し、新たな環境教育手法としての有効性を示しました。学生はフィールドワークやシステム実装、評価分析までを実践しました。これらの応用を今後関係者ともさらに協議を続けたいと考えています。



小矢部市の山間部における大気環境観測 2025

渡辺専門ゼミ

2020年および2021年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による中国のロックダウンの影響により、大気汚染の改善がみられました。しかしながら、経済活動の再開に伴い、再び元の状態に戻ると予想されました。これらを背景に、渡辺専門ゼミでは小矢部市教育センター(旧岩尾滝小学校)の理科室に観測機器を設置し、エアロゾル粒子および二酸化硫黄(SO₂)の測定を継続しました。

測定の結果、2023年は微小粒子の濃度が比較的良かったが、2024年および2025年の3月から4月の微小粒子個数濃度は若干増加しました。ただし、微小粒子個数濃度の長期変化から、大気環境が改善されている可能性も考えられました。2023年と2024年の3、4月は黄砂の影響を強く受け、粗大粒子個数濃度が高く、立山連峰が見えない日もありましたが、2025年はその影響が比較的小さかったと推測されました。また、2025年の初夏から夏季にかけて、桜島や新燃岳の火山噴煙の影響と考えられる比較的高濃度の二酸化硫黄が観測されました。



地域と協働する研究紹介

モーションキャプチャを用いたジュニアアスリートの動作改善

情報システム工学科 岩本研究室

地域と連携した研究の一環として、スポーツ分野におけるモーションキャプチャの活用に取り組んでいます。富山グラウジーズと協働し、2種類のセンサーを用いて動作を計測、取得したデータの分析を通じて、競技力向上やけが予防への応用可能性を検討し、ユース選手の動作を計測しました。また、富山北部高校フェンシング部とも同様の取り組みを開始し、競技特性に応じた動作データの活用を進めています。地域のスポーツ現場と連携しながら、研究成果の実践的な活用を目指しています。



富山市ファミリーパークにおける動物教育プログラムに向けた取り組み

中田研究室

本事業では、富山市ファミリーパークと連携し、夜間開園時の主要コンテンツである「動物とかけっこ」のシステム刷新を行いました。本年度は学生が主体となり、RFID 技術を用いた新たな動物選択システムを開発・実装しました。具体的には、RFID を内蔵したカードを1枚手に取り、センサーにかざすことで、来園者が3種類の動物の中から対戦相手を能動的に指定できる機能を導入しました。これにより、従来の一時的な体験に高い双方向性を加え、子供たちが動物の生態や身体能力に興味を持つきっかけを創出しています。



最新技術を活用した本システムは、夜間動物園の新たな魅力を引き出し、教育的価値と来園者の満足度を向上させる先進的な取り組みです。

富山で公共政策のさらなる発展を考える ナットクの政策形成に向けた AI の可能性と射水市の防災強化

中村(秀)卒業研究

中村(秀)卒業研究では、防災対策やAIを活用した内省支援について研究を行いました。防災対策では、射水市内3地区での質問紙調査を通じて津波浸水想定の自己認知と地震直後の行動の関係を分析し、地区ごとの認知のばらつきや地区条件・判断環境の違いが地震直後の行動の差に現れることを明らかにしました。AIを活用した内省支援では、ジェンダー平等をテーマとするテキスト型政策市民対話実験で、参加者の内省を支援するチャットボットを提案し、AIの活用が対話過程の納得性を高める効果を持つ可能性を示しました。

今回の卒業研究を通して、防災対策では区域確認、公式情報確認、行動選択の手順で訓練することの重要性を、AIを活用した内省支援ではAIの新しい可能性を学ぶことができました。

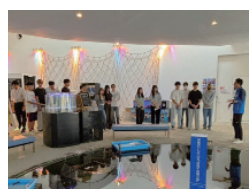


ひまわりサークルの活動 ひまわりサークル

ひまわりサークルでは、射水市制20周年記念事業として、射水市ブランドロゴマーク「ムズムズくん」をモチーフにしたひまわり迷路を制作しました。迷路の造成や整備、生育管理、雑草対策までを実施し、迷路内にはフォトスポットやクイズ形式の仕掛けを設けるなど、来場者が楽しめる工夫を行いました。その結果として、



ひまわり迷路の来場者数は659人となり、前年より大きく増加しました。また、女子ハンドボールチーム「アランマーレ富山」の試合における手伝いとして、会場の片付けや来場者の対応をしました。これにより試合が円滑に進行し、観戦しやすい環境づくりに寄与しました。これらの活動を通して、主体性や行動力の重要性を学び、地域とのつながりを深めることができました。



つながる心、ひろがる笑顔プロジェクト ナーシングフレンズ

看護学部ボランティアサークル「ナーシングフレンズ」では、県内外における医療福祉のニーズを抱える方々への支援と交流や、看護関連領域の課題解決に貢献することを目的に活動を行っています。



今年度は、親子交流会や子ども兄弟会、地域イベントのお手伝いなどを実施し、12月には学生と子どもたちが一緒にものづくりを通して交流を深める「みんなで作ろう!クリスマスフォトフレームづくり」を企画しました。社会福祉法人くみや富山子どもきょうだい会と連携し、参加者一人一人の状況に合わせてサポートしながら活動を進めました。これらの活動を通して、地域のコミュニティが担う役割や、地域における交流の場づくり、看護学生として行うことのできる支援などへの理解を深めることができました。

未来の自分に出会う一日 大門高校で職業体験イベント C-hub サークル

12月5日、大門高校にて、県内企業・団体および本学教員と連携し、六つの職業を体験することができる「職業体験イベント」を開催しました。本イベントは、高校生が実社会の仕事を身近に感じ、将来の進路選択や学習意欲の向上につなげることを目的として実施致しました。参加した生徒たちは、各職業の担当者から仕事内容や仕事のやりがい、社会との関わりについて直接説明を受けたほか、実際の道具や機材を使用した体験活動にも取り組みました。普段の授業では得られない実践的な学びを通して、働くことへの理解を深めるとともに、自身の将来像を考える貴重な機会となりました。地域企業とサークルが協力し、次世代育成を支える有意義な取り組みとなりました。



星で人と地域を繋ぐ 天文部

天文部では富山県立大学主催のダ・ヴィンチ祭や富山市、射水市、立山町、黒部市など富山県全域で、部活動で得た知識を用いてイベント活動を行っています。イベントの内容として多くのイベントで自作プラネタリウムドームを用いて星座の解説をしています。今年度の学生自主プロジェクトでは、従来、使用していたドームの老朽化を踏まえてドームの改修と新しいドームの作成を行いました。今年度行われたイベントでは、従来のドームのサイズに合わせて作成したフレームを用いて老朽化対策を行い、ドームを使用して解説を行った全てのイベントでお客様により良い体験をしていただきました。来年度からは、新しく作成したドームを使用してさらにより良いイベントにしていきたいと考えています。



大学コンソーシアム富山「学生地域リーダー塾」

9月20日～21日に大学コンソーシアム富山による「学生地域リーダー塾」が開催されました。「自然×地域×人～地域とともに未来をつくる」をテーマに、上市町を舞台として、県内の高等教育機関の学生、教職員、地域関係者などが参加しました。本学からはCOCOSメンバーを中心に、各機関の中で最多の9名が参加し、地域の魅力や課題を学ぶとともに、参加者同士の交流を深めました。



いみず学生アイデアコンテスト(特別枠)

射水市では、学生による地域課題解決アイデアの創出を図る実証プロジェクト「いみず学生アイデアコンテスト」を実施しています。書類審査、プレゼン審査会を経て選ばれたグループが実証実験に取り組みました。

ペットとつくる小杉の賑わいと共生のかたち 石黒詩歩

射水市小杉駅周辺では、若年層が増える一方で住民同士の交流の場が不足しています。そこで、この課題解決のため、ペットを介した地域交流イベント「こすぎペットえんがわ」を開催しました。イベントでは、会場回遊を促すスタンプラリーや、ペットの性格を可視化するコミュニケーションマークの配布、遊びながら学べる防災クイズなど、共生と安全をテーマにした企画を実施しました。また、地元飲食店との連携や、お絵かきボードの設置により、自然な会話が生まれる環境を整えました。当日は多くの来場者で賑わい、リピートを希望する声が多数寄せられるなど高い満足度を得ました。ペットが住民同士をつなぐ「鍵」となり、多世代が交流する新たなコミュニティを創出する機会となりました。



内発的学び循環で未来を拓くわくわくプログラミング教室 Engine

Engine では、「いみず学生アイデアコンテスト」においてプログラミング教室を活用した学習動機づけの提案を行い、優秀賞を受賞しました。子供たちの内発的動機づけを高め、論理的思考力や自己肯定感を育むことを目的に、市の担当課の支援を受けて授業部分に焦点を当てた実証実験を実施しました。実証実験では、射水市内の小中学生が Scratch でゲーム制作に挑戦し、自分のアイデアを形にする過程で主体的に工夫を重ね、成功体験を自信へとつなげました。アンケートでは5.0点中子供は4.6点、保護者は4.2点と高い満足度を示しました。今後は「学ぶ・作る・共有する・教える」の循環を生み出す仕組みを整え、地域と連携した持続可能な学習支援モデルの確立を進めていく予定です。



COCOS 活動報告①

アイデアコンテスト(ワクワク!海老江海浜公園ビーチクリーン大作戦)

COCOS では、「いみず学生アイデアコンテスト」に参加し、「海老江海浜公園を『未来の海辺の遊び場』に!」をテーマに活動しました。海老江海浜公園をもう一度訪れたい場所にするために、美しい景観の維持と満足度向上の観点から企画を立案し、審査を経て実証実験に取り組みました。実証実験では、ビーチクリーンの開催、子ども向けワークショップの実施、ごみを捨てたくない投票型ごみ箱の設置、参加者を対象としたアンケート調査を行いました。アンケートでは、「ワークショップにまた参加したい」、「ごみ箱の設置は効果的だと思う」といった前向きな意見が多く寄せられました。一方、ビーチクリーンでは、地元店舗で使えるクーポン券を景品とし、集まったごみの総重量当てクイズを取り入れるなど工夫を行いましたが、参加者は想定より少なく、イベントとしての魅力づくりや集客の難しさを実感しました。12月に行われた成果報告会では、これらの成果と課題を整理して発表しました。本活動を通して、子どもたちの思い出作りに貢献するとともに、海老江海浜公園に再び足を運ぶきっかけを提供することができました。

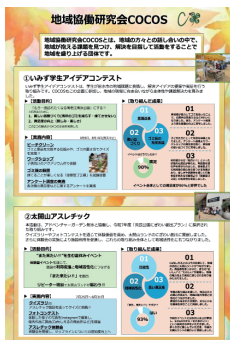


令和7年度後期 地域協働授業成果発表会

令和8年1月22日(木)に17団体がポスターセッション形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など約140名の参加がありました。



< 出展ポスター例 >



【ポスターセッション】1月22日(木) 13:10~14:40

- ① まちを歩き まちを知る「まちづくり」ゼミの1年
教養ゼミⅡ (教養教育センター 小林一也 教授)
- ② クリスマスマーケット in Toyama を開催して
教養ゼミⅡ (教養教育センター 金城朱美 准教授)
- ③ キャリア教育「あきらめずにやりきる力」～藤ノ木小学校とコラボ～
教養ゼミⅡ (教養教育センター リオリガ 講師 / 碓井エリザベス 講師 / モクタリ明子 准教授)
- ④ 教養ゼミによる出張科学講座
教養ゼミⅡ (教養教育センター リオリガ 講師 / 碓井エリザベス 講師)
- ⑤ 地域企業と連携したPBLプロジェクト
～富山オープンファクトリー×TPU 教養ゼミ～
教養ゼミⅡ (教養教育センター リオリガ 講師 / 碓井エリザベス 講師)
- ⑥ 滑川市長への提言「新・ほたるいかミュージアム」を
核にベイエリアを変える3つの企画
教養ゼミⅡ (教養教育センター 清水義彦 准教授)
- ⑦ 小矢部市の山間部における大気環境観測 2025
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 渡辺幸一 教授)
- ⑧ 地域と大学の協働によるICT・ものづくり教育支援の実践
専門ゼミ (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ⑨ 危機対応の人権基準から平時の人権を考える：観光と校則に着目して
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑩ 富山で公共政策のさらなる発展を考える：
ナットクの政策形成に向けたAIの可能性と射水市の防災強化
卒業研究 (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑪ 反転授業を利用した半導体・センサ・ロボット技術に関する協同的授業プログラム
先端技術教育反転授業推進チーム (知能ロボット工学科 水野齋 准教授)
- ⑫ ひまわりサークルの活動記録
ひまわりサークル
- ⑬ COCOSの活動報告
地域協働研究会 COCOS

【ポスター展示】

- つながる心、ひろがる笑顔プロジェクト
ナーシングフレンズ

【特別枠】いみず学生アイデアコンテスト

◆ポスター展示のみ

- ペットとつくる小杉の賑わいと共生のかたち
石黒詩歩 (富山県立大学)
- ワクワク!海老江海浜公園ビーチクリーン大作戦
地域協働研究会 COCOS (富山県立大学)
- ◆ 内発的学び循環で未来を拓く実践型わくわくプログラミング教室
Engine (富山県立大学)



COCOS 活動報告②

Cafe しえる

Cafe しえるは、富山県立大学射水キャンパスの近くにあるカフェで、障がいがあり一般企業で働くことが難しい方々がキャリアアップを目指して働いています。COCOSは、Cafe しえるを盛り上げ、店舗利用者を増やすことを目的に協働し、これまで複数回にわたり同店が提供するお弁当の販売を行ってきました。お弁当販売がよりよいものとなるよう、10月に学生・教職員を対象としたアンケート調査を実施したところ、野菜を摂ることのできるお弁当や季節感のある商品を販売してほしいといった要望が多く寄せられました。これを踏まえ、11月18日に学内で行ったお弁当販売では、野菜をふんだんに使ったお弁当や寒い季節にぴったりの温かいスープを新たに提供し、前回より多くの商品を販売することができました。アンケートには、手軽に食べられる大きさの商品や学生にとって手頃な価格の商品を販売してほしいといった声も寄せられています。今後もアンケート結果を参考に、満足度の高い商品を提供できるよう工夫していきたいと考えています。



クリスマスイベント

クリスマスイベントとは、NPO法人リボン from とやま主催、富山短期大学幼児教育学科2年共催のもと、12月20日(土)に富山短期大学で行われた「子ども子育て応援マルシェ」のイベントです。COCOSは、地域の子供たちに楽しく季節の思い出作りを行える場を提供することを目的に、スノードームづくりの出し物を行いました。子ども一人一人にメンバーが寄り添い、保護者の方とともに制作活動を支援しました。制作の説明から完成まで継続して関わり、子どもたちの発想や工夫を大切にしながら、安心して取り組める環境づくりに努めました。活動を通して親子との交流も一層深まり、会場には笑顔あふれる温かな時間が広がりました。また、COCOSのメンバーにとっても地域と向き合う実践的な学びの機会となりました。子どもや保護者の方との関わりから得た貴重な経験を、今後の活動へつなげていきたいと考えています。



～協働した方々の声①～

学生とひらいた、まちの工場

地域

トミファ実行委員長 中村 裕太郎

「富山って何があるの?」と聞かれたら、みなさんはどう答えますか。「食べ物おいしい」「立山がきれい」——そんな声はよく聞きます。でも実は、富山は全国有数の「ものづくり県」です。多くの工場が高い技術を持ち、日本中、世界中で使われる製品を支えています。けれど、そのすごさを自慢げに語る人はあまり多くありません。

そんな現状を少しでも変えたいと始まったのが、地域型オープンファクトリー「トミファ」です。県内企業が一斉に工場を開き、子どもから大人までが見て、触れて、ものづくりを体験できる場をつくりました。2025年夏の初開催では約1,000名が来場し、たくさんの笑顔に出会うことができました。



その裏には、富山県立大学の学生の皆さんとの協働があります。率直な意見や柔らかな発想は、企業にとって大きな刺激となりました。「富山といえば、ものづくりだよ」と自然に語れるまちへ。トミファは、そんな未来を目指して歩み続けます。



～協働した方々の声②～

卒業生

知能ロボット工学科 平野 愛奈

2026年3月卒業

約4年間、地域協働研究会COCOSにて様々な活動に関わらせていただきました。活動の中で最も意識していたことは、常に目的を明確にすることです。何のために活動を行い、その達成に向けて協働先とどのように関わるべきかを大切にしていました。



私は2年生に進級するタイミングで代表を任されました。コロナの影響で前例がほとんど無い中で活動方針や運営方法を構築する必要があり、迷いや不安を感じることもありました。しかし、活動の目的を定期的に振り返り、仲間や協働先の方々の支えの中で代表としての役割を最後まで果たすことができました。

また、活動の一環として参加した「いみず学生アイデアコンテスト」では、現地に足を運び、協働先の方と対話を重ねました。その中で課題の本質を捉え直し、目的をより明確にした上で課題解決に向けた提案を行うことができました。

これらの経験はCOCOSに所属していたからこそ培うことができたものであり、今後、社会で活躍していく中でも大切にしながら挑戦を続けていきたいと考えています。

最後に、未熟な私と共に活動してくださった皆様へ心より感謝申し上げます。

卒業生

生物工学科 笠原 歩実

2026年3月卒業

私はもともと地域交流活動に興味があり、その思いから地域協働研究会COCOSに参加しました。きっかけはとてもシンプルでしたが、この経験は大学生活をより色濃いものにしてくれたと感じています。

大学構内では地域のカフェと協力してお弁当販売を行い、学祭に向けて一緒に販売品を作りました。また、富山県内の過疎化が進む地域に泊まり、他大学の学生や地元の方々とSDGsやその土地の魅力、課題について話し合う機会もありました。

私は県外出身ですが、こうした活動を通して地域の方々と関わる機会が増え、顔見知りの方が少しずつ増えていきました。その中で、このまちに暮らす人々を身近に感じられるようになり、安心して大学生活を送ることができました。また、普段何気なく過ごしているだけでは気付けないことにも目を向けるようになり、多くの人と関わる中で、さまざまな立場や考え方があると実感しました。この学びをこれからも大切にしつつ、支えてくださったすべての方々に改めて感謝いたします。

皆さんも関心のあることには、ぜひ一歩踏み出してみてください。その一歩が新しい学びや出会いにつながるはずです。

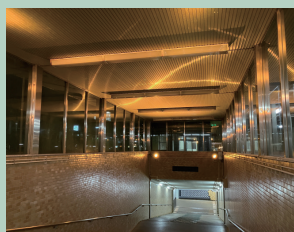


オレンジキャンペーン in 射水

～がんばる女性をみんなで応援～（3月1日～8日）

3月8日の国際女性デーに合わせ、女性のエンパワーメントやジェンダー平等について啓発するキャンペーンを、射水市、アランマーレ富山、本学が連携して実施しました。

今回もこれまでと同様に、アランマーレ試合会場でのメッセージ企画、中央図書館での特別展、小杉駅地下道・海王丸のライトアップなどを行いました。



県内スポーツチームとの取組み

カターレ富山

特別講演会(11月13日)

講師:カターレ富山

代表取締役社長 左伴繁雄氏

スポーツチームを地域資源として活用する意義や、経営の視点から見た地域活性化の取り組みをテーマに、スポーツと地域社会の関わりを学びました。



富山グラウジーズ

観戦ツアー(10月29日)

アンケート調査(12月)

10月に学生・教職員が参加した観戦ツアーを実施しました。また12月の試合において、来場者の満足度を確認するため、アンケート調査を実施しました。



アランマーレ富山

特別授業(12月5日)

講師:アランマーレ富山

部長 飯山進氏

アナリスト 布施千佳純氏

情報工学を学ぶ学生を対象にした授業において、スポーツチームにおけるAIなどを用いたデータ活用について学びました。



富山一丸 ユニホーム展示・メッセージ企画(2月7日)

アランマーレ富山/KUROBE アクアフェアリーズ富山/富山グラウジーズ

県スポーツまちづくり研究会による、ホームゲームを同日に開催するスポーツチームを各会場で一丸となって応援する企画を、研究会や各チームと連携して実施しました。



未来の地域リーダー認定

令和7年度「新未来の地域リーダー」認定者

- ①森本 悠太 ②工学部 電気電子工学科2年
③ワクワク!海老江浜公園ビーチクリーン大作戦
- ①林 愛惟良 ②工学部 環境・社会基盤工学科2年
③アドベンチャーガーデン射水との協働
- ①田中 悠太 ②情報工学部 知能ロボット工学科2年
③地域協働研究会COCOSでの活動(Cafeしえるとの協働)
- ①石黒 詩歩 ②工学研究科 環境・社会基盤工学専攻1年
③「こすぎ ペットえんがわ」の立案・企画・準備・運営

「新未来の地域リーダー」とは

本学では、学生の社会参画力や課題解決力の育成を図るため、地域課題解決力を養う活動に参加し、地域と連携の上、地域課題の解決に特に主体的に取り組んだ学生を、その学生からの申請に基づき審査のうえ、「新未来の地域リーダー」と認定しております。

①名前 ②所属・学年 ③活動テーマ ※②は認定時の情報です

編集後記

CBLニュース Vol.19をお読みいただき、ありがとうございました。編集を担当したCOCOSの曾根 悠也です。誌面づくりを通して多くの学びと気づきを得ることができました。記事をまとめている中で、本学の学生や教職員がそれぞれの立場から地域と関わり、挑戦を続けている姿がとて印象に残りました。これからも、そうした活動の一つひとつを丁寧に伝えていきたいと思っております。私たちCOCOSも含め、本学と地域社会とのつながりの魅力が、少しでも読者のみなさんに伝われば嬉しいです。

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

<https://tpu-cbl.net>

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

射水キャンパス(中央棟1階N-103)

TEL: 0766-56-7500

E-mail: kyodo@pu-toyama.ac.jp

編集: 地域協働研究会 COCOS

発行: 令和8年3月



CBLnews
バックナンバー

